

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0691600134		
法人名	社会福祉法人 みらい		
事業所名	グループホーム きらめきの里		
所在地	天童市大字山口4540-1		
自己評価作成日	平成31年 2月 11日	開設年月日	平成29年 4月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成31年 3月 8日	評価結果決定日	平成 31年3月19日

ユニット A

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所から2年になろうとしているが、職員が入れ替わりグループホームはおろか介護の経験のない職員が入職し、9月から自己評価をユニット会議で少しずつ始めていった。1項目ずつ職員みんなで話し合うことで方向性を確認し共通認識が持てたと思う。新人職員には経験ある職員がOJTに付き毎日その日の課題について話し合ってから勤務に就きこれを6か月間続け、一人一人の習熟度に応じたきめ細かい研修を行っている。食事作りは新人職員の負担にならないよう週1回昼食のみ行っている。食事作りがない分、入居者と丁寧に関わることができ穏やかに過ごされ、夜間も全員良眠で過ごされている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設2年目の本事業所は課題も少なくないが、課題を整理し、優先順位を決め、課題解決に真摯に取り組んでいる。新人職員が多く、その育成が喫緊の課題となっているが、6か月間のOJTでは日々の目標を掲げ、振り返りを行い、トレーナーが習熟度をチェックしながら職員の育成を進めている。また、本書の自己評価項目1項目毎にユニット会議で振り返りを行い、グループホーム及びケアのあるべき姿について話し合い、理解を深めながら、「良い介護で地域に貢献する」という理念の実現に努めている。開設してから日は浅いが、地域の人々とは良好な関係が築かれており、たくさんの果物の差し入れ、居場所作りカフェでの交流、防災協力体制の検討、小学生とのふれあいなど地域との共生を目指して活動を続けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人研修で必ず理念について施設長から講義を受けている。法人理念はホーム内に掲示している。また、ユニット会議でもっと掘り下げて話し合う場を設けたい。	前回目標達成計画に掲げた月毎のユニット目標についてミーティングで話し合い、時宜にあった目標を立て、振り返りを行っている。また全員で自己評価項目について話し合い、グループホーム及びケアのあるべき姿について理解を深めながら、利用者が役割を持ち、生きがいのある生活ができるよう支援し、「よい介護で地域に貢献する」という理念の実現に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	理容室の利用、地域の夏祭りの参加や小学校の生徒が来て歌を披露してくれたりと地域との交流を行っている。近くの公民館の居場所作りカフェに参加し、忘れていたと電話を頂き毎月参加して交流を図っている。	地域の夏祭りやマラソン大会の応援、公民館の居場所作りカフェやカラオケへの参加、小学生やバレー教室の子ども達とのふれあいなど地域との交流が行われている。隣接のデイサービスでは歌や踊り、紙芝居などのボランティアの来訪も多い。地域の方からりんごなど果樹の差し入れも多く、地域との良好な関係が築かれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	天童市が開催している認知症カフェに入居者、職員が参加した。また、介護労働安定センター主催の実務者研修でグループホームについて職員が講師として話をし認知症の人の理解に努めた。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今まで5回開催したが、家族や地区の方から意見を出してもらい、よりよいサービスの向上に活かしている。また、地域との防災協力体制について運営推進会議で何度かお話している。	メンバーに市職員、包括職員、区長、民生委員、市議会議員、家族が参加し2か月ごとに開催している。事業所から活動状況や利用者の状況、事故事例や身体拘束防止に関する事などの報告がなされ、委員から感染症や事故などの質問や地域の防災協力体制についての意見が出されるなど、活発な意見交換が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に毎回市職員が参加して下さったり、困り事には相談し解決に至る事ができた。介護相談員が12月から毎月訪問して下さり、グループホームの活動内容や現状を知って頂くと共に、意見を日々のケアに活かしている。認知症カフェにも数回参加し、交流を図った。</p>	<p>運営推進会議に市職員が参加し、介護相談員の訪問も隔月行われている。事業所から市の認知症カフェへの参加や介護認定審査会への協力などを通じて、日頃から情報交換や困難事例の相談などを行い協力関係を築き上げている。</p>		
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>自己評価を全員で取り組み、グループホームについて経験がない職員も一項目ずつ取り組む事により自分の介護の振り返りやグループホームの特徴等や身体拘束をしないケアについて話し合う事ができた。また身体拘束について内部研修を行っている。不穏時の外出希望は多くかわることにより以前より聞かれなくなった。夜間ベッドからの立ち上がりの時はセンサーマットを使用し転倒防止に努めている。</p>	<p>開設2年目で新人職員が多いこともあり法人研修会を開催するとともに、新人研修で身体拘束について心理的な面も含めて責任者が説明し身体拘束をしないケアについて丁寧に指導を行っている。法人に身体拘束適正化委員会が設置され、話し合われたことは職員にも伝達している。職員も身体拘束について理解し、利用者に寄り添いながら安全の確保に努めている。今後身体拘束適正化の指針を見直し内容の充実を図る予定である。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>毎月の全員参加の会議や研修を通して防止に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>毎月の全員参加の会議で話し合い、学ぶ機会を設けている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に職員が説明し、家族の疑問や不安には丁寧に応え理解、納得を図っている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話した時や面会時は本人の状況を報告し家族とのコミュニケーションを図り信頼関係を構築している。また運営推進会議に参加して下さった時に、意見を聞いて反映している。	運営推進会議に家族が毎回参加し意見をいただいている。介護プランに家族の面会支援を掲げ、家族の意見を聞き取りする機会を確保している。面会時や通院時に家族への声かけを心掛け、家族が意見や要望を話し易い環境づくりに努めている。また、介護相談員の定期的な来訪もあり、外部者へ意見や要望を表せる機会も設けられている。前回目標計画に掲げた「家族参加の行事企画」は継続して検討する意向である。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全員での会議を行い職員の考えを拾い上げている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩室の確保や休憩時間がきちんと取れるよう環境が整っており、職員の労働意欲の向上に努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修で新人研修は数日間、多岐にわたり座学の研修を設けている。経験のない新人職員に対しても、毎日職員と話し合いその日の目標設定し職員の習得状況を確認しながら6か月に渡り研修を行っている。	新人職員は座学研修の後、6カ月の研修期間を設けて毎日の活動目標設定と振り返りを行い、トレーナーが習熟度をチェックしながら育成を進めている。法人に研修委員会を設置し、感染症や虐待防止、防災などの研修会を企画している。外部研修として市主催の研修会への参加や資格取得への支援にも努めている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会、村山地区ブロック会の交換研修や、新人研修、計画作成担当者研修に参加し、サービスの向上に取り組んでいる。	グループホーム連絡協議会や村山地区ブロック会の研修会参加、交換研修の受け入れなどを行い、情報交換やネットワーク構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に入居前に利用している施設に出向き情報を得、職員で共有するとともに、入居後も家族や本人に興味や好きな事、習慣を聞き、職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時に不安や要望を聞き、契約等の説明時、家族に不安な事、要望等を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に介護サービス以外に往診や口腔ケア、在宅マッサージ、オムツ支援等、必要に応じて選択肢があることをお話している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗い、洗濯干し、モップ掛けなど生活のお手伝いをして頂き、感謝の言葉を述べて、お互いの信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、家族にグループホームでの様子を伝え、居室で本人とゆっくり話し合う場を設ける		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設内の他のサービスを利用している馴染みの利用者様が来てくださったり、会いにいらったりすることで支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶や食事の時間に利用者様同士で会話が楽しめるような話題を提供するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了者が一人いるが退去後も家族に電話し近況を聞いている。また家族のほうからも近況を報告する電話を頂いた。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	訪室や入浴時、一对一の関係の時に本人の本音を聞きだしているが、困難な場合は表情や様子を見て、判断し検討する。	基本情報シートで利用者の生活歴などを把握するとともに、面会時の家族との会話などから本人、家族の意向の把握に努めている。また入浴時などリラックスした場面で利用者の思いを引き出し、「気づき」を介護指示書に朱書きし、ケアプランにつなげている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を前の利用施設から得て、共有している。入居後は、ご本人やご家族、面会者への聞き取りにより、情報を得ている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体力、能力に応じて、昼寝等一人一人に合わせている。また、できる事できない事の把握に努めている。出来ることが継続出来るように支援に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から希望を聞いて介護計画に反映しているが意志疎通困難な利用者に対しては表情から判断し介護計画におとしている。	毎月のユニット会議で介護指示書を基に本人の状況を話し合い、職員間で情報共有し介護計画につなげている。6か月ごとにモニタリングを行い、評価を繰り返しながら、介護計画の見直しを行っている。見直しに当たっては、家族の意見を取り入れ、利用者の得意なこと・好きなことを位置づけ、役割を持ち、生きがいを持って暮らせるような介護計画を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録はケースに記入しそれを業務日誌におとす。また申し送りノートや利用者全員について毎月のミーティング時に介護指示書の見直しを行い、情報を共有している。		
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理美容室を利用している。また公民館で開催している居場所作りカフェに毎回参加している。ご近所からは季節の果物を頂いている。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から続いているかかりつけ医の通院の際は血糖値やバイタル、ホームでの様子を伝えている。また往診してくださる先生にも同様に対応している。	以前からのかかりつけ医受診は原則家族付き添いで行き、希望者には協力医の往診を行っている。受診時にはバイタルや生活状況を記載して情報提供している。また訪問看護師が2週間に1回来訪し健康チェックを行うなど安心して適切な医療を受けられるよう支援している。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師が定期的に来ており、その際、些細な事でも相談し対応だけでなく受診についても相談している。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	該当者なし		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に関する指針の説明を行っている。まだ対象者はいない。	入居時に重度化や看取りの指針について家族に説明している。重度化した場合は家族、医療機関、事業所で方針を話し合っって対応している。状況によっては特養への申し込みについて説明している。	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法やAEDの内部研修を行い、急変や事故、夜間等の救急対応に備えているが、まだ経験したことがない職員がほとんどであり、実際動けるか不安である。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で地域との協力体制についてお願いした。10月には水害等の避難訓練、11月には火災の避難訓練を実施した。ミーティング時に火災や水害を想定した机上の話合いを行った。	隣接している法人施設全体で火災訓練2回、水害訓練1回実施している。前回目標計画に掲げた「地域との防災協力体制」については運営推進委員の区長の取り計らいで来年度に話し合いを行う予定である。「救急隊への情報提供カード」を作成して利用者の情報がわかるように整備し、緊急時の対応に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症になっても家庭を守り、一世代を築きあげた方々であることを尊重した介護でありたいと心掛けている。丁寧な言葉では距離を感じるし、方言で気軽な言葉になってしまえばとどンドン崩れていくため永遠のテーマである。	新人職員には接遇研修を行うほか、責任者は利用者を人生の先輩として尊重し、特に言葉かけや口調、態度に気を配ることの重要性を指導している。挨拶の言葉や感謝の言葉をかけることで利用者の心情に配慮したケアにつなげている。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本音の言えるような環境づくり(入浴時など一対一の時)。自己決定が難しい方には選択肢を設け、自己決定ができるような質問の仕方をしていく。自己決定できない人に対しては表情を見ながら決定している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事作りは週一回昼のみであるため、一日の流れはゆったりとしている。毎日の過ごし方について入居者にその都度聞いて行ってはいるがレクリエーション等は楽しんで取り組んでいる姿が見られている。夕食後は好きな歌番組や飲酒など本人の希望に沿って支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問利用や希望時には地区の美容室で散髪、毛染め、パーマなど本人の要望に対応している。また、おしゃれが好きな入居者にはケアプランに挙げて支援している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは週一回昼のみであるが、食材切りや盛り付け、食器洗い、食器拭き、片付けなどは利用者と一緒に力を合わせて行っている。	献立は管理栄養士が作成している。食事は外部委託で、事業所では週1回の昼食のみ作っているが、盛り付け、配膳、後片付け等を利用者とともに行っている。季節が感じられる笹巻作りや干し柿作り、梅干し作りをしている。誕生会でのチーズケーキ作りやひな祭り等行事食の楽しみもある。地域からの果物の差し入れが多く、ジャム加工を楽しんだりしている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した栄養バランスのとれた食事の摂取量や水分量を記録し、全量摂取できるよう声掛けを行っている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きをしている。9人中8人が訪問歯科による口腔ケアを定期的に受けている。また口腔体操、嚥下体操を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表の記入により排泄パターンを把握し、一人一人の誘導時間の目安を元に本人に無理なくトイレでの排泄ができるよう支援している。	排泄チェック表などにより排泄パターンを把握し、適時誘導してトイレで排泄できるよう支援している。夜間はおむつ使用の利用者も日中はリハビリパンツにするなど気持ちよく過ごせる工夫もしている。トイレは居室2に対し1室の割合で居室の近くに設置されていることから、夜間も安全にトイレに行くことができるよう環境整備がなされている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行ったり、水分補給の重要性を入居者に訴えながら場合によっては下剤を服用し便秘にならないよう取り組んでいる。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は一日置きに、一人ずつ入っている。バンジー浴や個浴など利用者の身体能力に合わせた入浴方法で安全に入浴できるようにしている。入浴時は職員と一対一で会話ができるよう支援している。お湯の温度などは利用者の希望に合わせてくれるよう努めている。	本人の希望を聞きながら一日おきに入浴している。身体状況に応じてバンジー浴や個浴を利用している。ゆず湯やリンゴ湯などを楽しむ工夫をしている。入浴時は1～2人で介助し安全な入浴を確保するとともに、リラックスして会話を楽しめるよう工夫している。隣接する他事業所には特殊浴が設置されており、身体状況に応じて利用することもできる。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況に合わせて日中は適度な休息をとっている。湯たんぽや電気毛布を一人一人の状況に合わせて使用し、安眠につなげている。楽しみにしている番組がある時は、テレビを見てから就寝するなど、楽しみごとを優先して対応している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理は職員が行っている。薬情は個人ファイルに保管し常に閲覧できるようにしている。1日の薬を準備する人飲ませる人複数で準備し本人へ渡す際は分袋になっている袋の名前日付を利用者へ見せながら入居者へわかるよう読み上げ誤薬や飲み忘れが無いように努めている			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い・拭き、モップかけ、洗濯物たたみ・干し、カーテン閉め、テーブル拭き等役割活動や塗り絵などの趣味活動カラオケなどの趣味活動を行っている。Dサービスに来ているボランティア(歌や踊り)を観て楽しむ機会を創っている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域で毎月行っている居場所づくりカフェへ参加したり近くの美容室へ出かけている。季節を感じられるようなドライブ出かけられるよう心掛けている。	地域の居場所づくりカフェ、近隣の散歩、美容院、買い物など身近な場所への外出を行っている。季節の行事ドライブでは花見や紅葉狩り、川に飾られる鯉のぼり見学などの楽しみや、家族の協力により墓参りや法事への外出など、様々な外出支援が行われている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が難しいため施設では預かっていない。必要なものはご家族から持って来ていただいたり購入した場合は利用料と一緒に請求している。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状だしている。電話したいと要望があった場合は家族がいる時間帯を考慮し支援する。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度に配慮し、過ごしやすい環境作りに気をつけている。テレビはつけっ放しにせず、食事は食事に集中するようにしている。季節感のある作品を入居者と一緒に作成し季節感を感じてもらっている。	空気清浄機付きの加湿器が設置され、温度や湿度管理が適切に行われ、衛生面での管理が行き届いている。利用者が自分の役割として職員とともに掃除しており、清潔が保たれ、明るく、落ち着いたリビングとなっている。壁面には長寿番付や塗り絵など利用者の作品や活動の写真、利用者の故郷の写真など、センスがあり工夫が感じられる飾り付けが行われている。床材は転倒しても衝撃が少ないものとなっており、安全面にも配慮されている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の定番の席があるものの、仲の良いもの同士が座ったり、気分によってはソファに座る等、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの家具とベットがあるが、家からブティックハンガーや、写真やアルバムなど持って来て頂いている。ラジカセを持って来ていただき時々使用し趣味を楽しんでいる。	チェストとベッドが備え付けられ、落ち着いた雰囲気となっている。写真や馴染みの物を飾ったり、自分の歌を吹き込んだラジカセを持ち込んで若かりし頃の歌声を楽しむ利用者もいる。利用者と職員と一緒に掃除して清潔の保持に努めている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は動線に考慮して手すりがついている。立ち上がることが出来るようベッドの高さを調整した。床は転倒しても衝撃が少ない材質でできている。トイレは車椅子や歩行器で入れるトイレもあれば、一人で入って転倒しそうになった時すぐ壁や手すりにつかまれるような狭さだったり、安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。			